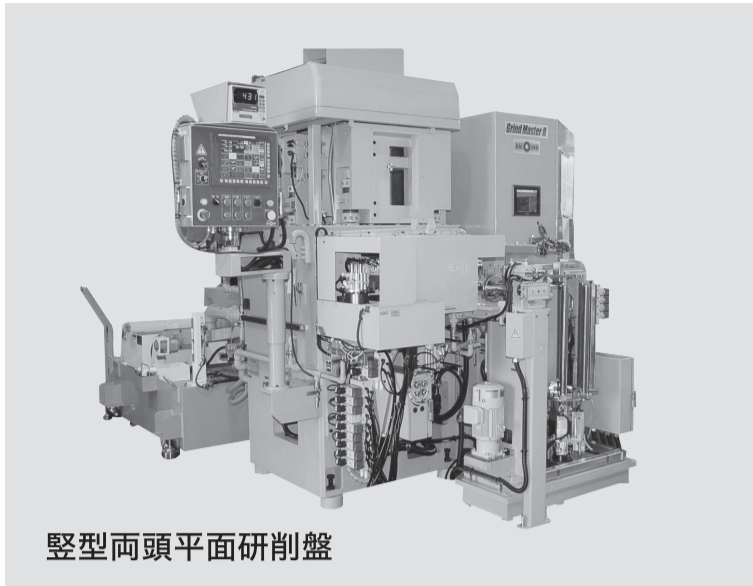


# 日本のトップランナー企業



堅型両頭平面研削盤

この新型研削盤は、市場のニーズに合致した機械となり、今では世界各地のユーザーに1300台以上の納入実績がある。

社の事業の柱となっている両頭平面研削盤は、研削砥石を対向に2枚設置し加工対象物をこれらの2枚の砥石の

間に通し両面を精度良く研削加工する。加工速度が速く、小さな部品であれば1分間に100〜120個の研削を可能にしたものもある。要求精度が厳しくなってきたディスクブレーキ部品に対して、従来の加工方式では加工精度を満足させることが困難なため、2000年に新加工方式（堅型両頭平面研削盤を使用した独自の研削方式）を開発した。

## 両頭平面研削盤の開発

大昌精機は、2021年に創設70年を迎える工作機械メーカー。同社がつくる製品は、大きく分けて両頭平面研削盤とピーリングマシンがあり、この2本柱で事業展開を行っている。16年12月にフランスの産業エンジニアリング集団であるフィブルグループの傘下に入り経営基盤を固め、今までのグローバル化が可能になった。

# 両頭平面研削盤とピーリングマシンの2本柱で市場開拓へ

## 大昌精機



南東側外観

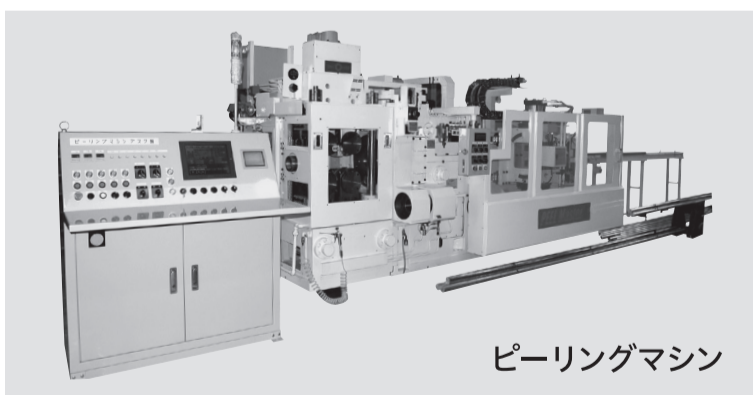
## ユーザー目線の企画・販売に特化

一方で、ピーリングマシンは両頭研削盤のユーザーとは異なる製鋼メーカーや磨棒鋼メーカーがユーザーとなる。

棒材の外周を切削加工する際は、一般的には旋盤が使われるが、棒材自体を回転させて切削する旋盤に対して、ピーリングマシンは棒材を横送りだけさせ、刃物の方を回転させて外周の切削加工を行う。旋盤のように棒材を固定する必要がないので連続加工が可能で、生産性が飛躍的に向上するのが特徴だ。このピーリングマシンを使えば、理論的にはどんな長尺の棒材でも切削できる。コイル状で供給される棒材を外周切削後に必要な長さに切断したり、コイル状に戻したりすることもできる。

## 生産性が飛躍的に向上

切削加工で出る切粉はリサイクルが可能なこと、フリット。これがさまざまな工程を経た後だと、スラッジが出て産業廃棄物の扱いになることもある。このた



ピーリングマシン

技術開発は、営業担当がユーザーニーズをつかんで社内フィードバックする形で行っている。これ以外にも毎年のようにユーザーと個別の共同開発プロジェクトを進めている。そのほか今は、工業系大学と産学協同プロジェクトを組んでの開発が進行している。今後も両頭平面研削盤とピーリングマシンの2本柱の進化に力を入れ、新規市場の開拓につなげていく。

## 環境にもやさしい

め、ピーリングマシンを使うことで、環境に対する負荷を最小限に抑えることもできる。

**DAI SHO** 大昌精機株式会社

〒669-1135 兵庫県西宮市国見台 6-2-1  
TEL: 0797-62-5500 FAX: 0797-62-3202

E-mail: sales@daishoseiki.co.jp <https://www.daishoseiki.co.jp/>